**●『倫理』　年間指導計画と観点別評価規準例**

数研出版 倫理/704

**■各教科の評価の観点及びその趣旨（高等学校及び特別支援学校高等部）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **公　民** | **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論，及び倫理，政治，経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに，諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 | 現代の諸課題について，事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，解決に向けて公正に判断したり，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。 | 国家及び社会の形成者として，よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 |

**■科目の目標**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **倫　理** | **知識及び技能** | **思考力，判断力，表現力等** | **学びに向かう力，人間性等** |
| 古今東西の幅広い知的蓄積を通して，現代の諸課題を捉え，より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 | 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や，現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して，論理的に思考し，思索を深め，説明したり対話したりする力を養う。 | 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり，他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される，現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。 |

**■年間指導計画と観点別評価規準例**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **月** | **時間** | **大単元****（学習項目）** | **小単元****（学習内容）** | **指導・評価の観点** |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
|  | 第1編　現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方 |
| **４** | **１** | 第1章さまざまな人間の心のあり方 | 1　発達の心理学 | 人間の心理的諸機能の発達や道徳判断の発達の理論，発達段階についての理論などについて理解できている。 | 人間の心の発達が他者との相互作用に中で育っていくことについて考えることができている。また大人になることの意味について考えようとしている。 | 今の自分の生き方を客観的に考えようとしている。 |
| **１** | 2　認知の心理学 | 知覚，記憶，推論，問題解決といった人間の知的活動にはどのような特徴があるのか理解できている。 | 人間がどのように感じ，学び，考え行動するのかについて考え，人間の特徴，さらに自分の生き方について考えることができている。 | 人間の知的な活動がどのような仕組みで行われているのか，興味を持ち，考えようとしている。 |
| **１** | 3　人格の心理学 | 人地一人の人間にはどのような違いがあるのか，その違いはどのように形成されるのか，その理論について理解できている。 | 自分の性格や能力などについて考察し，また他者と共に生きるということについて考え，それを文章に表現したり，発表したりすることができている。 | 性格はどう形成されるのか，自分と他の人の性格の違いはどうしておこるのか関心を持ち，調べようとしている。 |
| **1** | 4　感情の心理学 | 物事に対して起こる人間の感情にはどのような特徴があるのか，それは人の適応にとってどのような意味を持つのか理解できている。 | 欲求や意欲と，自己実現や生きがいとの関わりについて考えることができている。 | 自分の感情の変化やその意味について考え，調べようとしている。 |
| **４・５** | **５** | 第2章さまざまな人生観-源流思想- | 第1節古代ギリシアの思想 | ・神話が人間に対して持つ意味と哲学が誕生してきた背景が理解できている。・ソクラテス・プラトン・アリストテレスなどの思想家が求めた善・美の事柄，国家のあり方，人間観などについて理解できている。 | ・ソクラテスやプラトンが探求しようとしたものが何であったのか，どのような答えを求めたかについて思索することができている。・プラトンやアリストテレス，ヘレニズムの思想から，人間の存在や価値について考え，現代の私たちが公的な存在としていかに生きるべきか考えることができている。 | 哲学とは何を探求する学問なのかという関心と興味を持ち，調べようとしている。 |
| **５・６** | **３** | 第2節キリスト教 | ・ユダヤ教の歴史とその特徴について理解できている。・イエスが何を伝えようとしたのか，ユダヤ教と関連させて理解することができている。・キリスト教の成立の背景とその宗教的な特徴が理解できている。 | ・宗教が人間に対して持つ意味について考察するとともに，自分なりの意見を表明できている。・イエスの教えや，その後のキリスト教徒の活動の意味を考察し，それが現代の社会にどのような意味を持っているのか考察することができている。 | 現代も多くの人が信仰するキリスト教について興味を持ち，その教えがどのようなものであるか調べようとしている。 |
| **６** | **１** | 第3節イスラーム | ・イスラーム成立の歴史的背景が理解できている。・ムハンマドの説いたイスラームの教えの内容が理解できている。 | イスラームが教える社会の中での人間の生き方から，相互扶助や社会貢献といった行為について考えるとともに，宗教と社会や共同体との関係について考察することができている。 | 現代イスラームの実情について関心を持ち，それがどのような教えに基づいているのか，調べようとしている。 |
| **６** | **３** | 第4節古代インドの思想と仏教 | ・バラモン教成立の背景，ウパニシャッド哲学の内容について理解できている。・ブッダが人間をどうとらえているか，その基本的な教え(四諦説や四法印など)が理解できている。・上座部仏教と大乗仏教の相違とその後の世界への影響について理解できている。 | ・ウパニシャッドの説く梵我一如や輪廻の思想と仏教との関係について考えることができている。・ブッダや，その後の大乗仏教の縁起や慈悲といった思想が現代の生活や社会に与える意味について考察し，議論すること，文章にまとめることができている。 | 日常生活の仏事を振り返って現代の日本にも影響を持つ仏教に関心を持ち，その教えについて調べようとしている。 |
| **６・７** | **３** | 第5節中国の思想 | ・諸子百家の主張とその出現の背景が理解できている・孔子をはじめ孟子や荀子，朱子など儒家の思想家がどのような人間の理解に立って仁や礼，治世のあり方などの主張を行っているのか理解できている。・老子・荘子など道家の思想内容(道や無為自然・万物斉同など)を理解できている。・（源流思想を通して）それぞれの原典をよみ，その内容を読み取る技能を身につけている。 | ・仁や礼といった思想，あるいは性善説・性悪説といった主張が，どのような人間観からうまれ，望ましい人間関係や社会のあり方をどのように構想したかを考察し，それが現代社会を考える時どのように参考になるか考えることができている。・儒家と道家の人間観の違いが，現代に生きる私たちにどのような示唆を与えているか，考えることができている。 | 日本社会にある儒教文化や，中国の思想について関心を持ち，調べようとしている。 |
| **７** | **２** | 第3章さまざまな倫理観・世界観-西洋近現代思想- | 第1節理性への信頼と人間の尊厳 | ルネサンス期の人々，宗教改革の担い手，モラリストといわれる人たちの業績やその主張について理解できている。 | ルネサンスと宗教改革の二つの運動がヨーロッパの近代化に持った意義について考察できている。またその二つの運動の共通点と相違点について記述することができている。 | 近代とはそれまでの時代と何が異なり，その特徴はどこにあるのか考え，調べようとしている。 |
| **９** | **２** | 第2節自然・科学技術と人間 | ・天文学に始まる近代科学の先駆者の功績について理解できている・デカルト・ベーコンやその後の経験論・合理論の立場に立つ思想家の主張について理解できている。 | ・デカルトやベーコンに始まる思想家が自然と人間の関係をどうとらえ，世界はどのように理解できると考えたのか考察できている。・人間の理性や経験をどうとらえ，真理とはどのようなものかを考える中で，科学的思考の意味について考えることができている。 | 現代の科学・技術と人間生活との関わりに興味を持ち，科学的思考の特徴について明らかにしようとしている。 |
| **９** | **４** | 第3節個人・社会と自由 | ・ホッブズ・ロック・ルソーが，どのように国家の権力が生まれ，その権力はどうあるべきと考えたかについて理解できている。・カントの認識論・道徳論の理解を通して，理性の働きやその尊厳について理解することができている。・ヘーゲルの弁証法や倫理学の理解を通して，法と道徳，家族と社会と国家の関係について理解できている。 | ・社会契約説を理解した上で，現代の社会において国家のあるべき姿について，また社会と個人のあり方とはどういうものか考察することができている。・カントの主張を通して，人間の本質的な自由ということについて考察し，人格として他者を尊敬することの意味について考えることができている。・個人の権利や自由が社会の中で実現できることの条件やそのための国家の役割というものについて考察し，自分の意見を発表，議論することができている。 | 「民主的」であることが現在の社会で前提となっていることに対して，その言葉がどのような意味で使われるようになったのか関心を持ち，民主主義という考え方がどのように生まれたのか調べようとしている。 |
| **９・10** | **４** | 第4節民主社会の倫理 | ・ベンサムの量的功利主義とJ.S.ミルの質的功利主義の主張とその違いについて理解できている。・プラグマティズムの思想的特徴を理解するとともに，それが社会改善にはたした役割について理解できている。・空想的社会主義とマルクスの思想，およびそれ以降の社会主義思想の主張と実践について理解できている。 | ・功利主義の立場に立つ時，他者といかに関わり，社会を成り立たせるための公正・公平な仕組みを構想できるのか，考察し議論することができている。・プラグマティズムの思想が民主主義の発展にどのような役割を果たすことができるか考察することができている。・社会主義の主張や目指したものが現代の社会を考えるとき，どのような視点を与えるのか考えることができている。 | 自分の幸福の実現を考えたとき，民主的な社会とどのように関わっていけばよいかを考え，今の社会はどうあるべきか，どう発展させていくべきか考えようとしている。 |
| **10・11** | **６** | 第5節現代思想の流れ | ・キルケゴール・ニーチェ・ヤスパース・ハイデッガー・サルトルといった実存主義の思想家が主体的に生きるということについてどのような主張をしているのか理解できている。・フロイトやユングの思想，構造主義やフーコーの思想，フランクフルト学派，現代の科学論などの思想が主張する，人間の理性の問題，社会の構造といった捉え方，などについて理解ができている。・レヴィナス・アーレント・ハーバーマスの思想を通して，現代において他者の持つ意味や相互的・共同的な営みにおいて理性が持つ役割について理解ができている。・ロールズやセン・サンデルなどが，現代の福祉のあり方についてどのように考えたかについて理解できている。 | ・実存主義の主張から，今の自分の生き方を問い直し，課題は何かについて考えることができている。・西洋哲学が重視してきた合理的思考との意味と限界ということについて，また近代科学に代表される知のあり方の特徴について思索を深め，それが抱える問題について考えることができている。・人間の生き方は自由であるという前提に立って，自分自身が自由に生きるための必要な判断基準はどのようなものか考察し，さらに他者に対する共感や他者理解の必要性について思索を深めることができている。 | ・現代社会のさまざまな問題と人間の思想との関係について興味を抱いている。・20世紀に起こった大きな戦争や民族的対立を考える中で，また，現代の国内外の政治を考える時，これまでの人間の営みの中で培ってきた思想や考え方の中で問い直す点は何であるか，考え，調べようとしている。 |
| **11** | **２** | 第6節現代社会と生き方 | ・フロム・ウェーバー・リースマンらが，自由という概念がどのように変質し現在どうとらえられていると主張しているか理解できている。・ガンディーやシュヴァイツァーの思想や活動を理解し，現代におけるヒューマニズムの意義について理解することができている・キングやサイードの思想から，差別が生まれ出る心のメカニズムを学ぶことができている。・（西洋近現代思想を通して）先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から，さまざまな情報を読み取る技能を身に付けている。 | ・先人の努力によって獲得された自由を，高度に発達した現代社会においてどのように考えるべきか考察することができている。・自分が自由であること，同時に他者の自由を守っていくということを考える中で，社会参加あるいはボランティア活動について，自分の意見を発表し議論することができている。 | 私たちが長い歴史の中で獲得してきた自由の意味について考えようとしている。 |
| **11** | **２** | 第4章国際社会に生きる日本人としての自覚 | 第1節日本の風土と古代日本人の考え方 | ・日本の気候・地形・植生などの風土が日本人の意識や心情の底流となっていることを理解できている。・記紀神話に記された内容や，現在に伝わる民俗・風習から，古代の人々の宗教観や道徳感が理解できている。 | ・日本の風土や農耕などの営みが日本人の心情の形成にどのように影響しているのか考察することができる。・禊や祓ひなどにみられる古代以来の日本的な罪観念について，現代と比較して考察することができている。 | 今の私たちの自然観や道徳観がどのようにして生まれどんな特徴を持っているのかについて興味を持ち，調べようとしている。 |
| **11・12** | **４** | 第2節仏教の受容と展開 | ・聖徳太子をはじめ，奈良時代の仏教者，また空海・最澄らがどのように仏教を学び，受容しようとしたか理解できている。・末法思想がその時代の仏教に与えた影響，鎌倉時代の仏教がどのように展開したのか理解できている。・浄土系仏教と禅宗系仏教および日蓮宗の各特徴が理解できている。・古典や芸能などの中に見られる仏教思想の影響について理解できている。 | ・聖徳太子をはじめとする仏教者が日本に仏教を定着させようとした意義とその影響について考察することができている。・奈良から平安時代にかけて受け入れられて来た仏教が，日本でどう受け止められ，また鎌倉時代に仏教を展開したその祖師たちの独自性はどういう点にあるか，考察し，まとめることができている。・平安時代以降に書かれた古典文学や，芸能に対して仏教がどのように影響を与え，また，新しい芸術が生み出されていったのか考察できている。 | ・現在の仏教の宗派といった在り方に関心を持ち，それがどのように生まれ，それぞれの宗派がどのような教えを解いているのかについて興味を持ち資料を読み考えようとしている。・仏教が日本の文化に与えた影響について関心を持ち調べようとしている。 |
| **１** | **５** | 第3節儒学の受容と国学の発達 | ・江戸時代の儒学について，日本朱子学と日本陽明学の相違，および古学派の主張が理解できている。・国学の思想系譜と思想内容，および神道思想についての理解ができている。・民衆の思想，および洋学の思想的特徴とその時代背景が理解できている。 | ・江戸時代の儒者たちがそれぞれ儒教をどのように受けとめ，その時代の状況の中でどうあるべきと考えたのか，またそれが日本人の思想形成にどのような影響を与えたのか，考察することができている。・本居宣長など国学者が古代の日本人の心情をどうとらえ，それがその時代にどのような影響を与えたのか考えることができている。・日本人の思考傾向の中にある儒教的なもの，また江戸時代に培われた思想が現代の日本人の精神に与えた影響について考えてみることができている。 | 現代の生活にも見られる儒教的な儀礼や考え方に注目し，どのような歴史的な状況の中で成立し，社会に影響を与えてきたのか関心を持ち調べようとしている。 |
| **１・２** | **６** | 第4節西洋思想の受容と近現代の日本の思想 | ・啓蒙思想・キリスト教思想・伝統思想などを中心にして，西洋の思想がどのように受容されたか，またその受容に対する反発について理解できている。・近代文学，大正デモクラシー，近代日本哲学，民俗学などの運動が，何を主張したのか理解できている。・グローバリゼーションとナショナリズとの関係をもとに，第二次世界大戦後の日本の戦後思想が課題としたものについて理解できている。・（日本の思想を通して）先哲の思想に関する原典や原典の口語語訳などの諸資料から，さまざまな情報を読み取る技能を身に付けている。 | ・幕末からの思想的動きを振り返り，明治維新の持つ意味について考察できる。・福沢をはじめとする啓蒙思想家や，内村などのキリスト教者が西洋思想を受容して，日本でどのような新たな思想を形成しようとしたのか，またそこにどのような問題があったのか考察することができている。・漱石らの近代文学，大正デモクラシー，西田・和辻らの哲学，民俗学などの主張が生まれてきた社会の状況とそこにあった問題意識について考察することができている。・グローバリゼーションの進む現代の国際社会の中で，今後の日本がどのような役割を果たしているのかを考え，意見を交わすことができている。 | 欧米化された現代日本社会の現状を振り返り，明治以降の日本の歩みに関心を持ち，どのように日本の近代社会が形成されてきたのか，そこにどのような問題があったのか考えようとしている。 |
|  | 第2編　現代の諸課題と倫理 |
| **３** | **６** | （第1節から第6節のうち，いくつかを選択して学習） | 第1節生命をめぐる諸課題 | 生命の誕生・延命治療・終末医療などの現状を認識し，生命科学の進展とともに起こっているさまざまな問題とそれぞれが抱える倫理的課題について理解することができている。 | ・生命の誕生，病や老いや死の問題などを通して，生きることの意義について思索できている。・生命に関わる倫理的な問題に対して，自分の考えを持ち，その理由や根拠を明らかにして他の人と対話し，課題の解決の方向を探ることができている。 | 現代の生命科学や医療技術の状況に関心を寄せて，現状について調査し，その問題点について考えようとしている。 |
| 第2節自然をめぐる諸課題 | 人間の生命が自然の生態系の中で他の生物との相互依存関係によって維持されていることを踏まえ，現在起こっている環境問題の現状と，その解決を考えるための倫理的視点（環境倫理の主張）について理解できている。 | 現在の地球規模の環境汚染・破壊といった問題の解決方法を探ると同時に，将来の世代に対して責任を持つ行動とはなにかという視点から倫理的課題について考察し，議論し合意の形成に努力しようとしている。 | 人間も含め多くの生き物が生きる生態系の中で今どのような問題が起こっているのかに関心を持ち，それらの解決に必要なことは何か調べ考えようとしている。 |
| 第3節科学技術をめぐる諸課題 | ・科学及び科学技術が人間の生活を豊かにし，同時に大きな弊害をもたらすようになったことを理解できている。・情報技術の進展，さらにはAIをはじめとする先端科学の進展が人間社会にどのような影響を与えているのか，その利便性と危険性について理解できている。 | ・人工知能を含めた情報社会の進展や，それが人間の生活と社会に与える影響について考察し，そこで必要な制度や能力育成など，情報社会の課題について考え，議論することができている。・現代の科学技術の根底にある自然観について，日本を含む東洋の自然観も考慮しつつ多面的に考えることができている。 | 自分の身の回りにある情報機器の進化を始めとして情報社会の進展の中で起こってきている問題について関心を持ち，その解決に必要な事は何か調べ考えようとしている。 |
| 第4節福祉をめぐる諸課題 | さまざまな人が存在し生活していることを前提として，どのような視点で福祉を考えなければならないか，差別や偏見ということがなぜ起こるのかについて理解できている。 | さまざまな境遇の人が存在し，何かを求めている時，個人として，社会としてどのように応答すべきなのか，共生を実現しようとする時，そこでの倫理的課題は何であるのか探求しようとしている。 | 社会にはさまざまな人が生き，また家族や地域社会が大きく変化し続けていることを意識して，すべての人が良き生き方を選べるようにするためには何が必要か探求しようとしている。 |
| 第5節文化と宗教をめぐる諸課題 | ・グローバリゼーションが進む現代社会で，異なる文化や宗教を持つ人々を理解し，共生に努力する必要があることが理解できている。・多文化主義や文化相対主義の意味を理解し，同化主義や自民族中心主義を克服するということについて理解できている。 | 異なる文化や宗教との接触が深刻な紛争を生じさせる一方で新たな文化的創造につながることを理解した上で，そこでの倫理的課題や共存のための方法について探求しようとしている。 | 多様化する社会の中で，他者と共存していくためにどのような社会が必要か，どのような価値観が必要なのか考えようとしている。 |
| 第6節平和をめぐる諸課題 | 国際平和が過去の戦争への反省と，人類の福祉の向上に取り組む地道な努力を通して実現されることを理解し，戦後の平和の理念についてユネスコ憲章などの資料から学び取ることができている。 | ・過去の戦争について，どのような反省がなされ，それ以後の戦争を起こさない取り組みがなされたのかを調べ，平和な世界を構築するための倫理的課題を見つけようとしている。・核兵器をなくすための世界と日本の取り組みについて調べ，日本人としての生き方と関連付けて考えようとしている。 | 今も世界の各地で起こる戦争や紛争，日本を取り巻く国際的状況に関心を持ち，平和であることの意味や，平和を維持するための試みについて調べ考えようとしている。 |